

「社内ASP」で 情報を共有化 タイムラグ・ゼロを目指す

事業の拡大とともに、問題となるのが生産・事務の効率化。フル稼働のための生産計画、在庫管理、原価の確認などは、いち早く欲しい情報であり、低コストで行いたい分野だ。今回取材した岩手缶詰株式会社は、先進的な技術を導入し各地にある工場同士の情報の共有化を目指している。

その実現のため取り入れられたのが現在注目される「ASP(アプリケーション・サービス・プロバイダー)」の応用。本来は、ソフトをCD-ROMなどではなくWEBなどで提供・料金徴収する形態を指すが、岩手缶詰では社内サーバをソフトの提供元に見立て、各端末でソフトが利用できる「社内ASP」に取り組んでいる。スピードアップ&低ランニングコストが可能になるという新システムに迫ってみた。

缶詰から総合食品加工に

「創業60年を超えますが、当初は缶詰だけの生産でした。しかし、より多くのニーズに応える意味からも、昭和60年代に入りさまざまな食品加工を手がけるようになりました」と語るのは、岩手缶詰株式会社管理本部総務グループの久保也次長である。冷凍分野を含め県下に5工場を運営し、実に700以上の品目を生産している。

「缶詰を中心に冷凍食品、レトルト食品など、季節やニーズにより生産内容は変わっていきます」。事業の拡大をにらみ、岩手缶詰では昭和55年にいち早くオフコンを導入。その後、平成9年にはNTサーバに切り替え効率化を図ってきた。

現システムの問題点

しかし、そのシステムにも問題があった。

「農林水産物の加工の場合、

各工場で仕入れる材料原価の違いは珍しくありません。また日によっては予定の生産量に達しないこともあります。こうした情報が、本社はもちろん工場間で分かれば、仕入れや在庫の調整ができるだけでなくコストダウンにつながります。

従来は、各工場にサーバがあり、そこで集約されてから本社に送信されるため、情報が工場間で共有しにくいものでした。必然的にファックスや電話を使った問合せが増加します。電話料も含め、見逃せない金額になってきたんです。

情報の共有化を目指して

「こうした状況を打破するため、そして、さらなる効率アップの

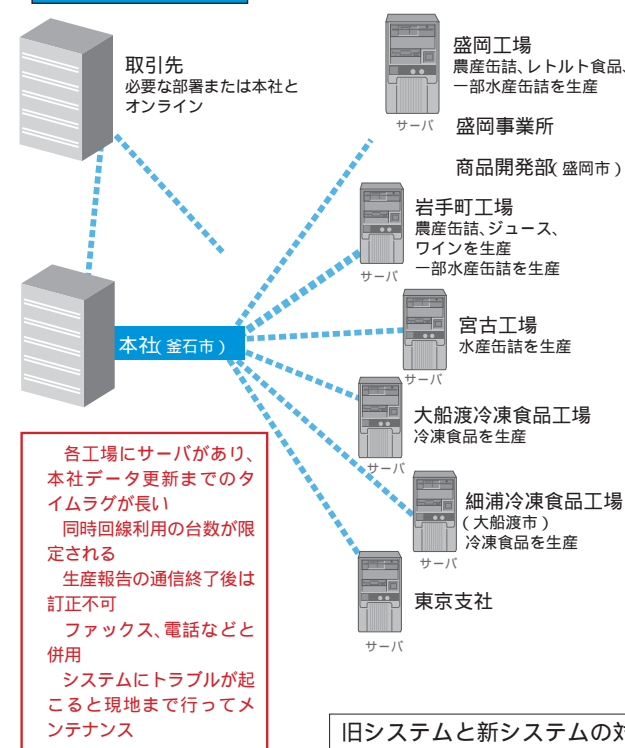


INTERVIEW 岩手缶詰株式会社

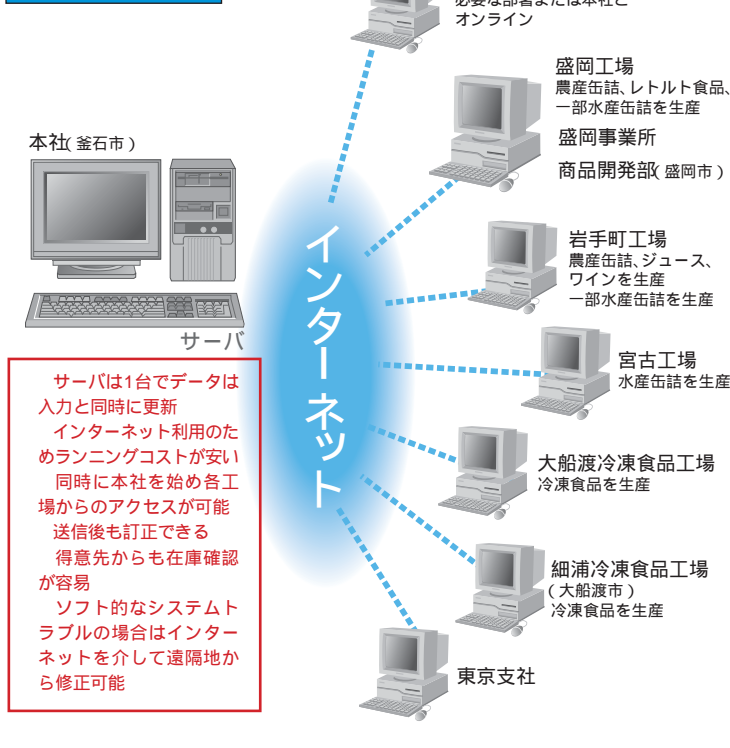
会社概要

創立 昭和16年12月29日
従業員数 940名
本社 釜石市浜町2-1-15
事業内容 食料品製造販売業(缶詰・冷凍食品・レトルト食品・ジュース・ワイン・ジャム・ゼリーなど)

旧システム



新システム



ため、今回導入するのが『メタフレーム』というソフトを中心にした先進システムです。

県内では例が非常に少ないというこの最新システムの利点は次のようなものだという。

まず、各工場のサーバを本社1台に集約する。同時に原価や生産計画、出荷などの生産分野と

導入に際し協力したのは東北ビジネスコンピューター販売株式会社の富田正男さんと関美保子さん。旧タイプのプリンタへの対応など、導入例がないだけに苦労も多かったという。

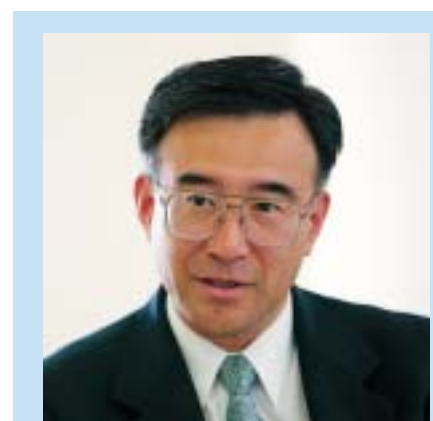


財務のデータベースを構築し、社内のどこからでも同じデータベースにアクセスできる環境にした。

そして特筆すべきは、このサーバを利用するための環境である。端末パソコンでのアプリケーションのインストール作業は行わない。必要なアプリケーションもサーバが供給するというのだ。「しかも、入力した時点でサーバにアクセスしているわけですから、本社はもちろん、どの工場や支社から見ても生産状況がつかめるようになるわけです。さらに取引先企業にもユーザー名、パスワードなどを渡すことで、ダイレクトに在庫確認がしていただけるようになります。」

新システムのデータ量はモバイル通信などで使用されている64Kbpsでも十分のため、現在のインターネット環境なら多数がアクセスしても、速度が落ちることはない。

さらなるコストダウンへ
工場のパソコンも小さなデータ



岩手缶詰(株)の久保也次長。昭和55年のオフコン導入にもたずさわったという。「当時はメンテの度に泊まり込みで、いまでも寝ながら聞いたプリンタの音が忘れられない」と苦笑する。

を使用するため負荷が少なくて済む。つまり定期的なパソコンの機種替えからも脱却できるという。まさにいま話題のASPを社内で実現するシステムだ。

今年の4月から過去のデータ入力などの準備が始められ、いよいよ11月には稼働する。サーバから供給されるタイムリーな情報は、工場長会議などでも活用されるという。「毎日の分析が容易になるわけですから、各工場の歩留まりもすぐ分かってしまいますね」と、久保次長はいたずらっぽく笑った。